

学力調査の結果概要

調査の概要

調査の目的

ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

調査の内容（教科に関する調査）

主として「知識」に関する問題 【国語A、算数・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B、算数・数学B】
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

調査の対象学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

調査日時

平成19年4月24日（火）

4月24日に調査を実施した学校・児童生徒数

学校行事等で後日実施した学校は、全体集計に含まない。

【小学校調査】

	対象学校数	学校数(実施率)	児童数
全国(公立学校)	21,939校	21,889校(99.8%)	1,125,585人
大阪府(公立学校)	1,022校	1,016校(99.4%)	76,903人

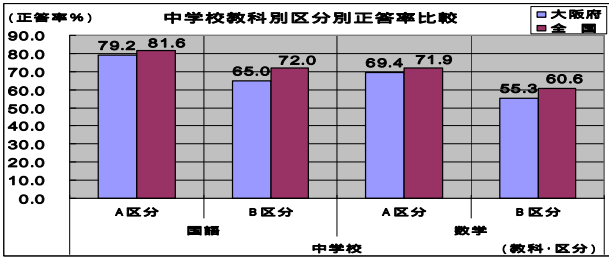
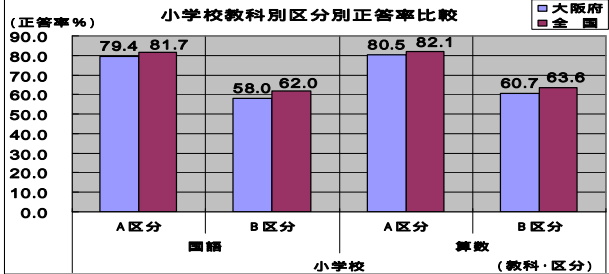
【中学校調査】

	対象学校数	学校数(実施率)	生徒数
全国(公立学校)	10,250校	10,050校(98.0%)	1,023,516人
大阪府(公立学校)	469校	454校(96.8%)	66,044人

校種・教科・区分別正答率比較

校種・教科・区分別正答率比較 (%)

校種	教科	区分	大阪府	全国	大阪府-全国	判定±5%
			小学校	国語 A区分	79.4	81.7
小学校	国語	B区分	58.0	62.0	-4.0	=
		A区分	80.5	82.1	-1.6	=
	算数	B区分	60.7	63.6	-2.9	=
		A区分	79.2	81.6	-2.4	=
中学校	国語	B区分	65.0	72.0	-7.0	≠
		A区分	69.4	71.9	-2.5	=
	数学	A区分	69.4	71.9	-2.5	=
		B区分	55.3	60.6	-5.3	≠



正答数分布（横軸：正答数・縦軸：割合）

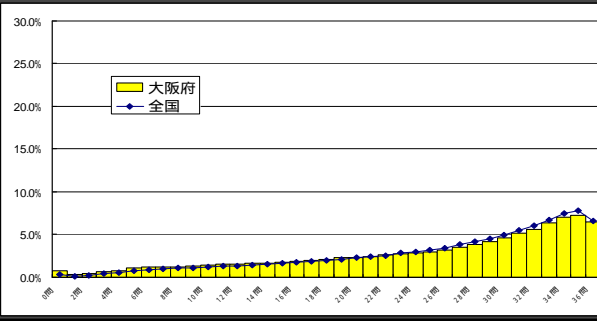
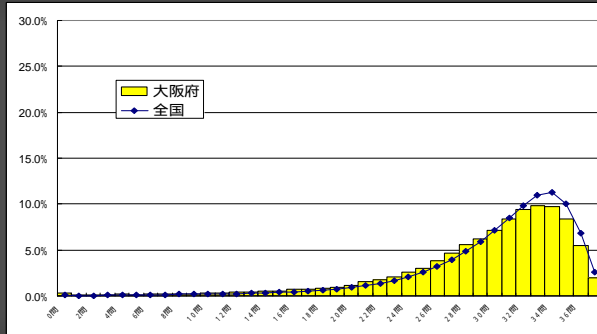
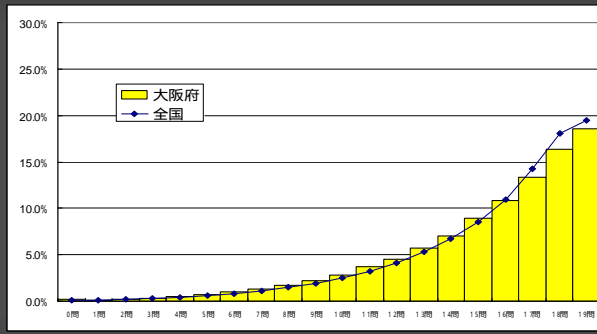
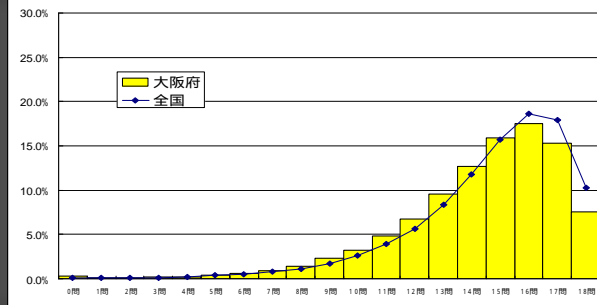
小学校国語

小学校算数

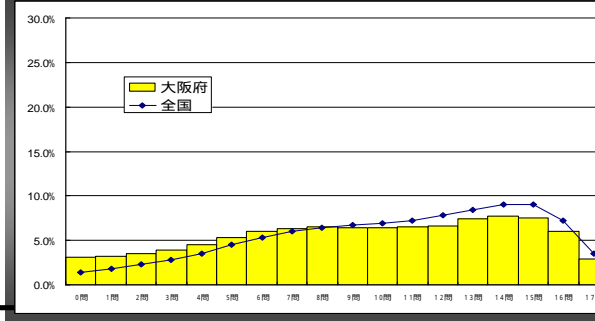
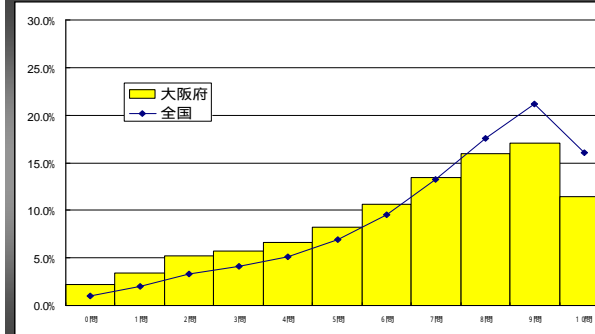
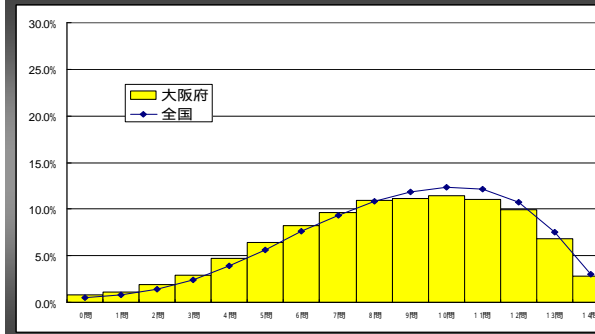
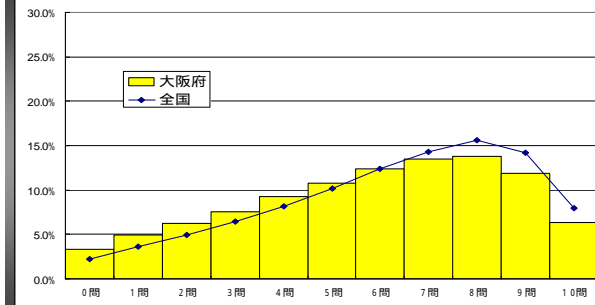
中学校国語

中学校数学

A区分問題



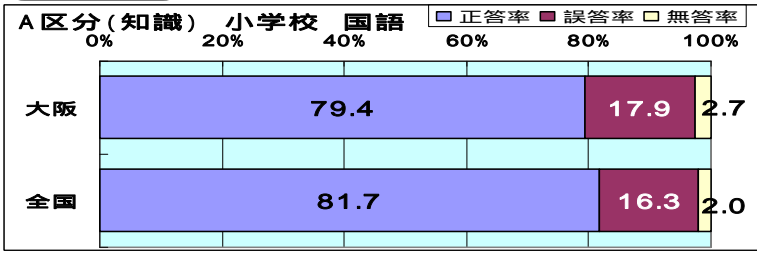
B区分問題



A区分問題（「知識」に関する問題）

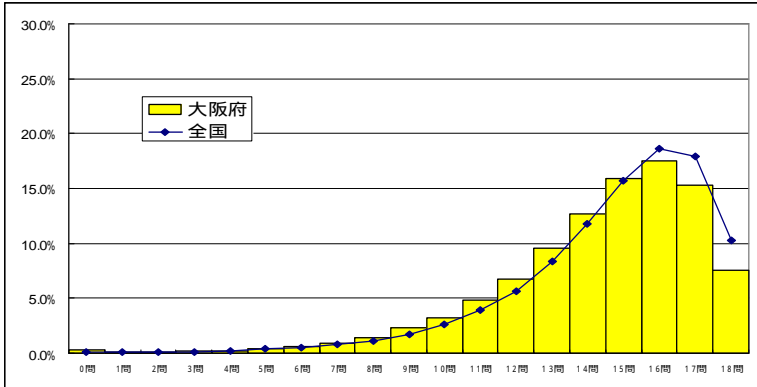
児童の平均正答率が約8割（79.4%）であり、相当数の児童が今回出題された学習内容を概ね理解していると考えられる

正答率比較 正答率においては、全国の状況を2.3ポイント下回る



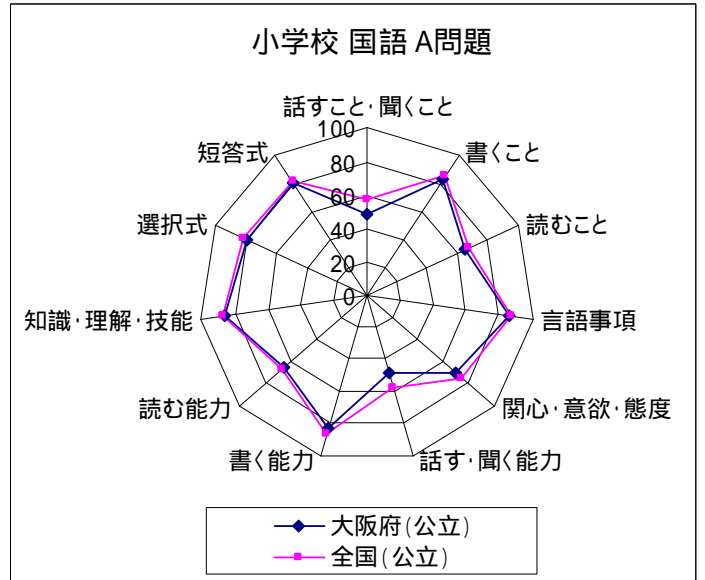
- 正答率においては、全国が81.7%であるのに対し、大阪府の平均は79.4%で、2.3ポイント下回っている。
- 誤答率では1.6ポイント、無答率では0.7ポイント、全国を上回っている。

正答数分布 分布の状況は全国の状況と同傾向



- A区分問題は、総問題数が18問であり、全国も大阪府も16問（百点満点換算で約89点）を頂点とする右寄りの山型を描いている。
- 16問（同約89点）以上の上位層においては、大阪府が全国を下回っており、特に17問（同約94点）、18問（同100点）では、下回り方が大きい。
- 15問以下の問題数の中・下位層においては、分布の占める割合は、全国よりも高い。
- 0問では、全国は、その占める割合が0.1%であるのに対し、大阪府は0.3%と占める割合が高く、課題である。

領域・観点・問題形式別 話すこと・聞くことに課題



- 全体の傾向としては、全国の状況と同じである。
- 「言語事項」「知識・理解・技能」については、比較的良好であり、大阪府調査と同様の傾向となっている。
- 今回の調査では、大阪府調査において課題となった「書くこと」「書く能力」は、比較的良好であったが、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」では、大阪府調査とは異なり、課題となって現れた。

A区分問題（「知識」に関する問題）にみえる課題等

【話すこと・聞くこと】

話し方に関する知識（聞き手の反応を確かめながら話すことなど）や聞き方に関する知識（要点をメモに取りながら聞くことなど）の理解に課題がある。

【書くこと】

文章の中から必要な言葉を選んで箇条書きに書き換えるなど、内容を整理することは、相当数の児童ができている。

【読むこと】

物語文の一場面を読んで、登場人物の関係を押さえ心情を把握することに課題がある。

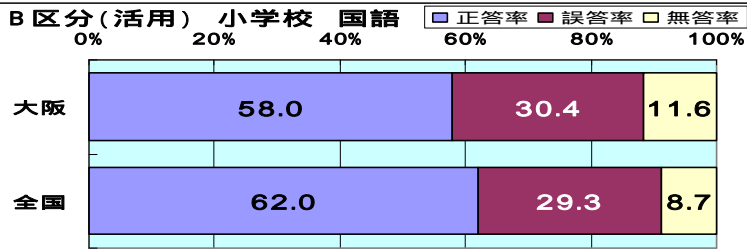
【言語事項】

漢字を読んだり、書いたりすることについては、相当数の児童ができています。指示語の使い方、指示語が示す内容について、相当数の児童が理解している。文の構成を理解し、1文を2文に書き換えることに課題がある。

B区分問題（「活用」に関する問題）

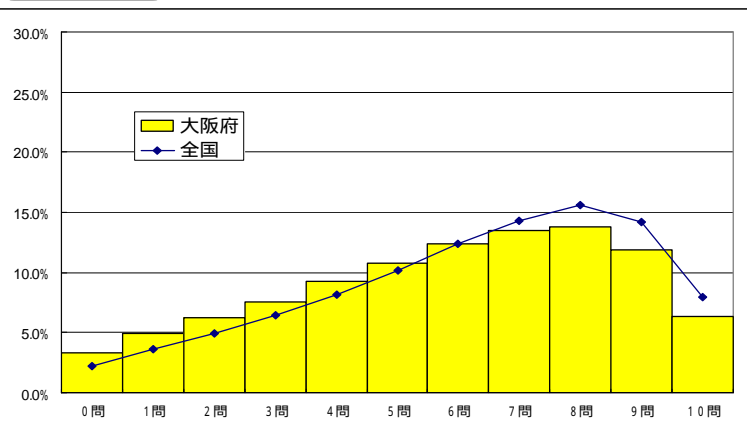
児童の平均正答率が6割を下回っており（58.0%）、知識・技能を活用する力に課題がある

正答率比較 正答率においては、全国の状況を4ポイント下回る



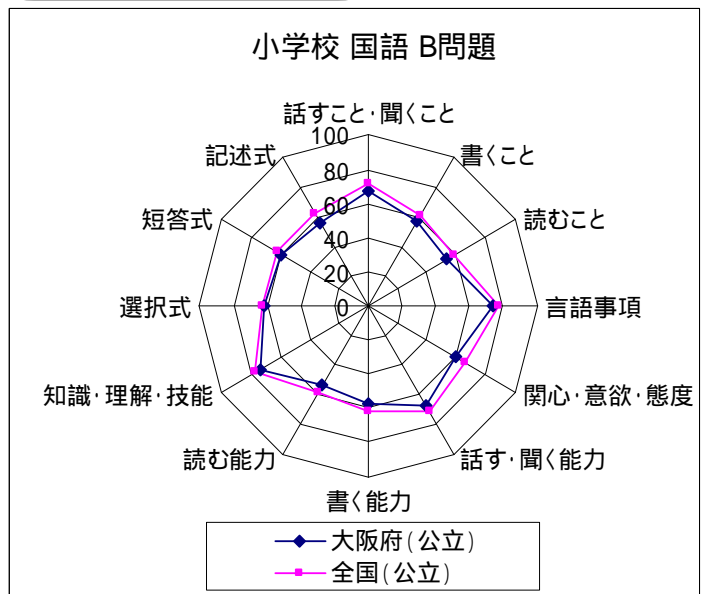
- 正答率においては、全国が62.0%であるのに対し、大阪府の平均は58.0%で、4.0ポイント下回っている。
- 誤答率では1.1ポイントであるが、無答率では2.9ポイント、全国を上回っており、無答率の高さは、課題である。

正答数分布 上位層において全国を下回る



- B区分問題は、総問題数が10問であり、全国も大阪府も8問（百点満点換算で80点）を頂点とするなだかなりの山型を描いている。
- 6問（同60点）以上の上位層においては、大阪府が全国を下回っており、特に8問（同80点）、9問（同90点）、10問（同100点）では、下回り方が大きい。
- 5問以下の問題数の下位層においては、分布の占める割合は、全国よりも高い。
- 0問では、全国は、その占める割合が2.2%であるのに対し、大阪府は3.4%と占める割合が高く、課題である。

領域・観点・問題形式別 全国の状況と同傾向



- 全体の傾向としては、全国の状況と同じである。
- 「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」「言語事項」「知識・理解・技能」については、比較的良好であり、大阪府調査と同様の傾向となっている。
- 課題としては「読むこと」「読む能力」「記述式」が明らかとなったが、このことについても、大阪府調査の結果と同様の傾向となっている。

B区分問題（「活用」に関する問題）にみえる課題等

【話すこと・聞くこと】

話し合いにおいて司会の役割や働きを理解し、話し合いを計画的にすすめていくことに課題がある。

【書くこと】

説明文の要点を本文に即して的確に読み取り、要約したり、資料から必要な情報を取り出し、与えられた条件に即して書き換えたりすることに課題がある。

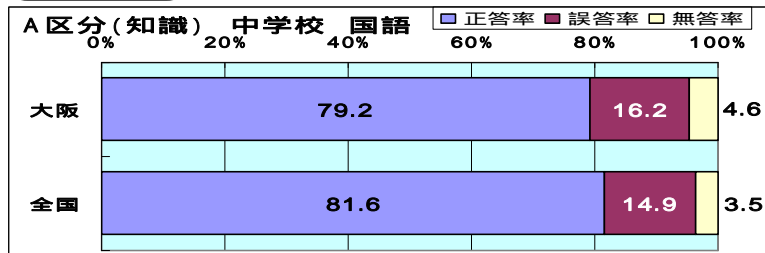
【読むこと】

文章の内容にふさわしい事柄を関連するグラフから読み取ることに課題がある。
 同じ本を読んだ2人の感想文の共通点を評価して読み、自分の考えをもつことに課題がある。

A区分問題（「知識」に関する問題）

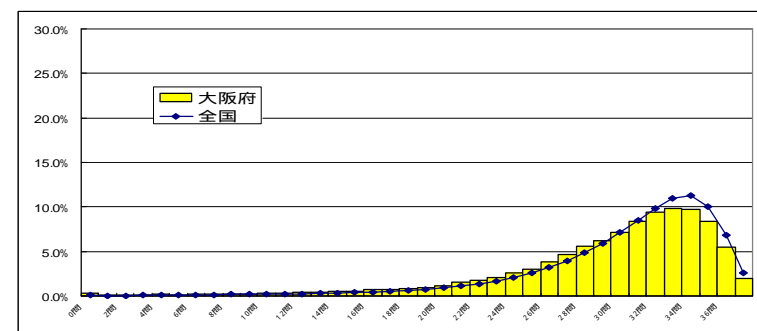
生徒の平均正答率が約8割（79.2%）であり、相当数の生徒が今回出題された学習内容を概ね身に付けていると考えられる

正答率比較 正答率においては、全国の状況を2.4ポイント下回る



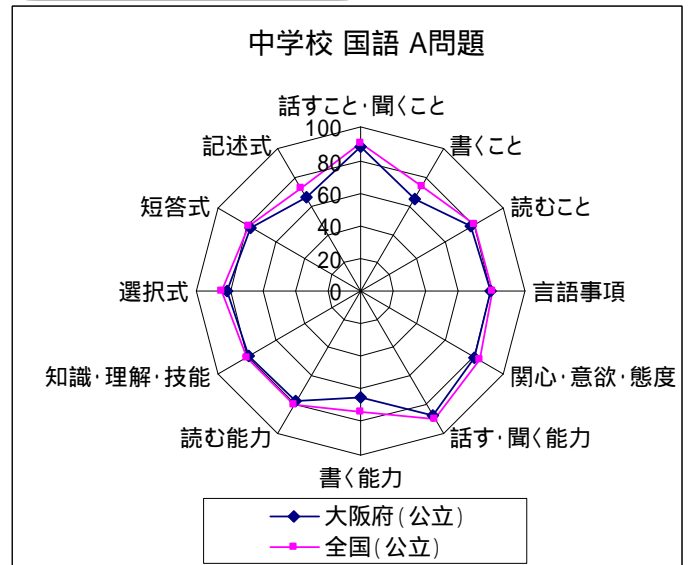
- 正答率においては、全国が81.6%であるのに対し、大阪府の平均は79.2%で、2.4ポイント下回っている。
- 誤答率では1.3ポイント、無答率では1.1ポイント、全国を上回っている。

正答数分布 右寄りの山の形で、上位層で全国を下回る



- A区分問題は、総問題数が37問であり、全国が34問（百点満点換算で約92点）を頂点とする右寄りの山型を描いているのに対し、大阪府は33問（同約89点）を頂点とする右寄りのなだらかな山型を描いている。
- 31問（同約84点）以上の上位層においては、大阪府が全国を下回っており、特に33問（同約89点）、34問（同約92点）、35問（同約95点）、36問（同約97点）では、下回り方が大きい。
- 30問以下の問題数の中・下位層においては、分布の占める割合は、全国よりも高い。
- 0問では、全国は、その占める割合が0.1%であるのに対し、大阪府は0.3%と占める割合が高く、課題である。

領域・観点・問題形式別 書くこと・書く能力に課題



- 全体の傾向としては、全国の状況と同じである。
- 「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」は、正答率が90%近くあり、他の領域や観点に比べ良好である。
- 一方、「書くこと」「書く能力」「記述式」では、70%を下回り、大阪府調査同様、生徒の「書くこと」への抵抗感の大きさを示している。

A区分問題（「知識」に関する問題）にみえる課題等

【話すこと・聞くこと】

聞き手を意識して分かりやすい言葉を選んだり、話を聞いてメモを取った際に不足している情報を適切な表現で話し手に確かめたりすることは、相当数の生徒ができています。

【書くこと】

グラフから必要な情報読み取って記述することは、相当数の生徒ができています。手紙の後付けの書き方についての理解に課題がある。

【読むこと】

自然描写や比喩などの表現技法に着目した文学的な文章の読み取りに課題がある。

【言語事項】

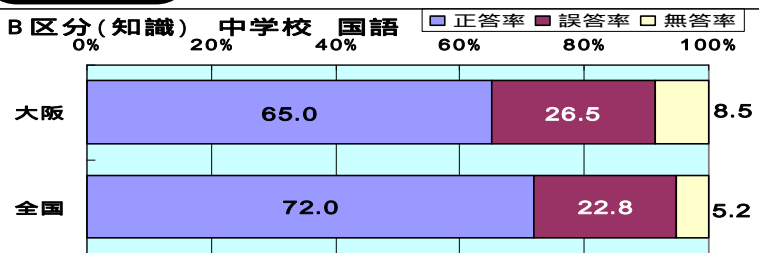
文の成分の照応に注意して書くことや生活の場面で敬語を適切に使うことは、相当数の生徒ができています。

「繁茂」の読みなど、文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。

B区分問題（「活用」に関する問題）

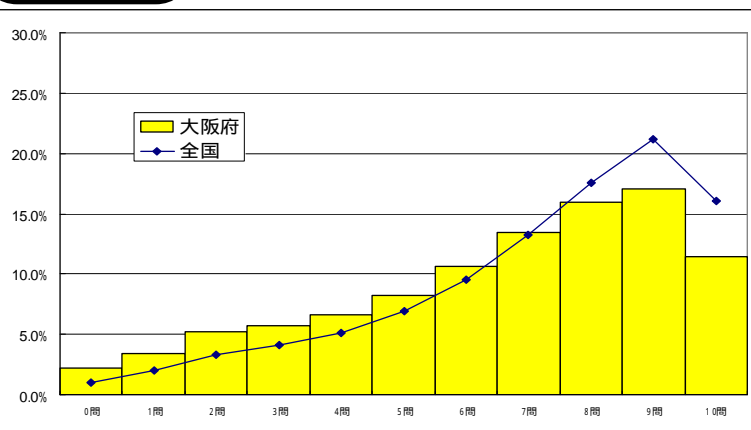
生徒の平均正答率が約6割5分（65.0%）であり、知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要がある

正答率比較 正答率においては、全国の状況を7.0ポイント下回り、有意な差がみられた



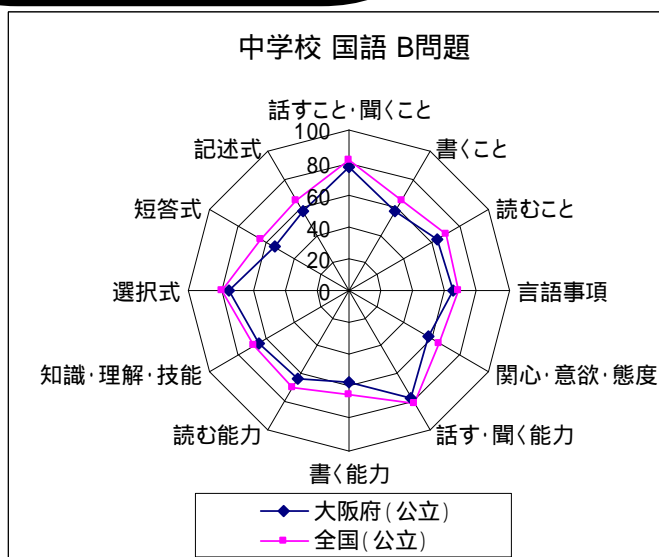
- 正答率においては、全国が72.0%であるのに対し、大阪府の平均は65.0%で、7.0ポイント下回っている。
- 誤答率では3.7ポイント、無答率では3.3ポイント、全国を上回っている。
- 正答率は全国の状況との間に有意な差がみられ、誤答率、無答率とも差が大きい。

正答数分布 下位層へ拡散傾向、上位層で全国を下回る



- B区分問題は、総問題数が10問であり、全国、大阪府とも9問（百点満点換算で90点）を頂点とする右寄りのなだらかな山型を描いている。
- 8問（同80点）以上の上位層においては、大阪府が全国を下っており、特に9問（同90点）、10問（同100点）では、下回り方が大きい。
- 7問以下の問題数の中・下位層においては、分布の占める割合は、全国よりも高い。
- 0問では、全国は、その占める割合が1.0%であるのに対し、大阪府は2.2%と占める割合が高く、課題である。

領域・観点・問題形式別 多くの項目で全国とに差



- 全体の傾向としては、全国の状況と同じである。
- 「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」では、正答率が80%近くあり、他の領域や観点に比べ良好である。
- 一方、「書くこと」「書く能力」「記述式」では、60%を下回り、B区分問題においても大阪府調査同様、生徒の「書くこと」への抵抗感の大きさを示している。また、全国との差も大きい。

B区分問題（「活用」に関する問題）にみえる課題等

【話すこと・聞くこと】

調べたことを発表する際に、話す内容に応じて適切な資料を提示することについては、相当数の生徒ができている。

【書くこと】

文学作品の内容や構成について自分の考えを書くことについては、相当数の生徒ができています。複数の資料から得た情報を整理して、伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことに課題がある。

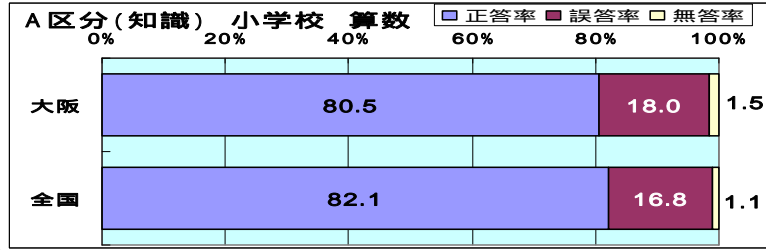
【読むこと】

複数の資料を比較し、その違いを読み取り、読み取った事柄を説明することに課題がある。

A区分問題（「知識」に関する問題）

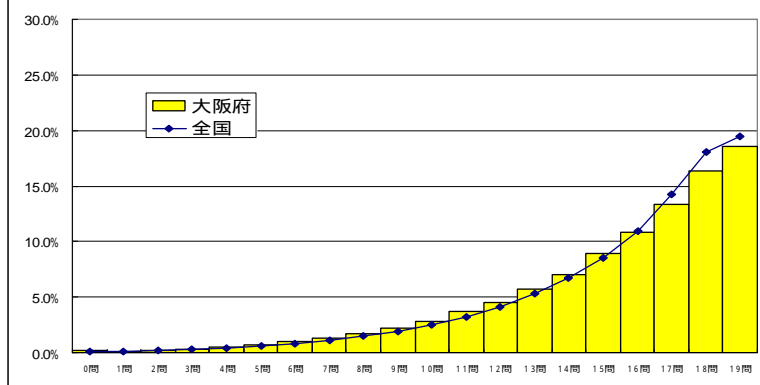
児童の平均正答率が約8割（80.5%）であり、相当数の児童が今回出題された学習内容を概ね理解していると考えられる

正答率比較 正答率においては、全国の状況を1.6ポイント下回る



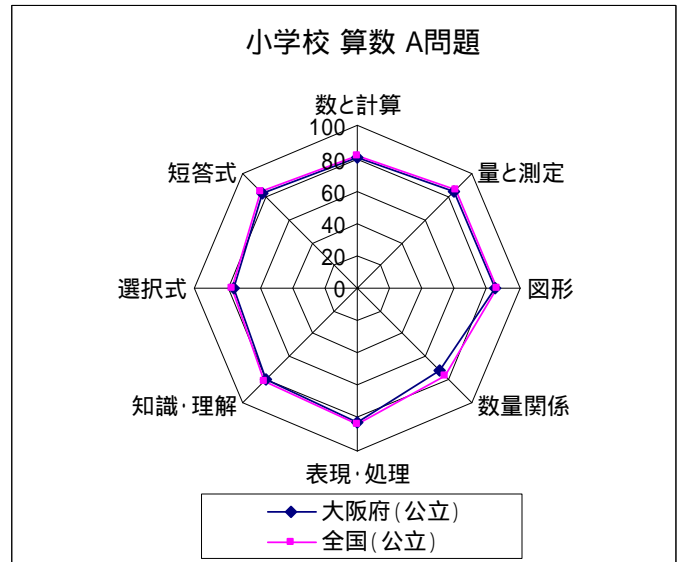
- 正答率においては、全国が82.1%であるのに対し、大阪府の平均は80.5%で、1.6ポイント下回っている。
- 誤答率では1.2ポイント、無答率では0.4ポイント、全国を上回っている。

正答数分布 右上がりの分布で全国の状況と同傾向



- A区分問題は、総問題数が19問であり、全国も大阪府も19問（百点満点換算で100点）を頂点とする右上がりのラインを描いている。
- 16問（同約84点）以上の上位層においては、大阪府が全国を下回っており、特に17問（同約89点）、18問（同約95点）では、下回り方が大きい。
- 15問以下の問題数の中・下位層においては、分布の占める割合は、全国よりも高い。
- 0問では、全国は、その占める割合が0.1%であるのに対し、大阪府は0.2%と占める割合が高く、課題である。

領域・観点・問題形式別 全国の状況と同傾向



- 全体の傾向としては、全国の状況と同じである。
- いずれの領域・観点・問題形式においても、大きな差はみられず、約80%の正答率であるが、特に「量と測定」「図形」「表現・処理」では、他の領域、観点に比べ良好な状況がみられる。
- 全領域・観点において、相当数の児童が概ね学習内容の理解ができていると考えられる。

A区分問題（「知識」に関する問題）にみえる課題等

【数と計算】

- 整数、小数、分数の計算は、相当数の児童ができている。
- 分数や小数の意味と大きさについての理解に課題がある。
- 与えられた小数の乗法の式に対して、それにふさわしい問題文を考えることに課題がある。

【量と測定】

- 三角形の面積や平行四辺形の面積を求める公式について理解し、面積を求めることは、相当数の児童ができている。
- 円の面積を求める公式を理解し、面積を求めることに課題がある。

【図形】

- 三角形の三つの角の大きさの和、平行四辺形の定義や性質についての理解は、相当数の児童ができています。

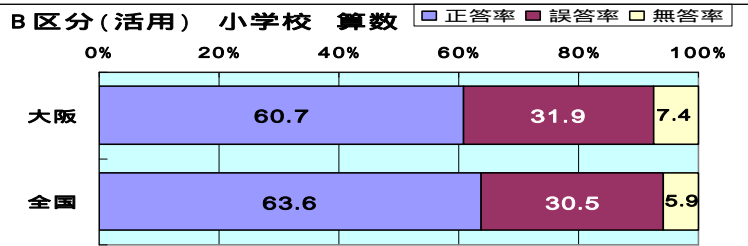
【数量関係】

- 四則の混合した計算において、計算の順序についての決まりの理解に課題がある。

B区分問題（「活用」に関する問題）

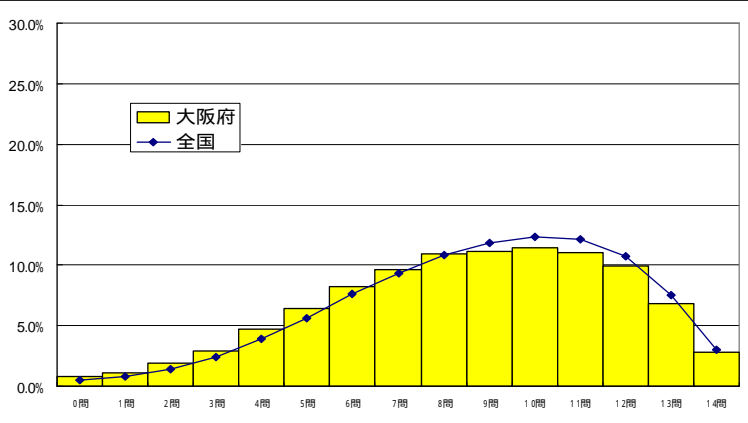
児童の平均正答率が約6割（60.7%）であり、知識・技能を活用する力に課題がある

正答率比較 正答率においては、全国の状況を2.9ポイント下回る



- 正答率においては、全国が63.6%であるのに対し、大阪府の平均は60.7%で、2.9ポイント下回っている。
- 誤答率では1.4ポイント、無答率では1.5ポイント、全国を上回っている。

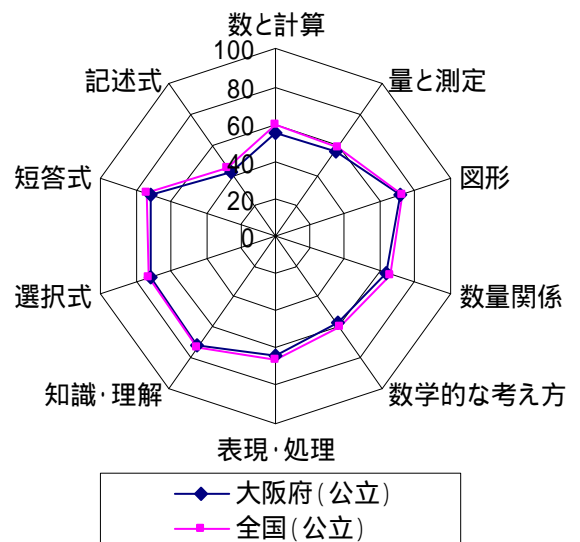
正答数分布 右寄りの山の形で、上位層で全国を下回る



- B区分問題は、総問題数が14問であり、全国も大阪府も10問（百点満点換算で約71点）を頂点とする右寄りのなだらかな山型を描いている。
- 9問（同約64点）以上の上位層においては、大阪府が全国を下回っており、特に10問（同約71点）、11問（同約79点）、12問（同約86点）、13問（同約93点）では、下回り方が大きい。
- 7問以下の問題数の下位層においては、分布の占める割合は、全国よりも高い。
- 0問では、全国は、その占める割合が0.5%であるのに対し、大阪府は0.8%と占める割合が高く、課題である。

領域・観点・問題形式別 全国の状況と同傾向

小学校 算数 B問題



- 全体の傾向としては、全国の状況と同じである。
- 「図形」の領域や「知識・理解」の問題では比較的良好と言えるが、解決の過程や根拠を説明する「記述式」問題においては、課題があると言える。

B区分問題（「活用」に関する問題）にみえる課題等

【数と計算】

計算の工夫をよみとり、それを用いて異なる数値の問題の解決方法を説明することに課題がある。

【量と測定】

複数の図形で面積が等しいことの原因を言葉や式や図を用いて説明することに課題がある。

日常の事象の中から図形を見だし、面積を比較して説明することに課題がある。

【図形】

地図上の移動経路を、図形の性質を用いて考えることに課題がある。

【数量関係】

棒グラフから、資料の特徴や傾向をよみとることは、相当数の児童ができている。

帯グラフから割合の変化の様子をよみとることに課題がある。

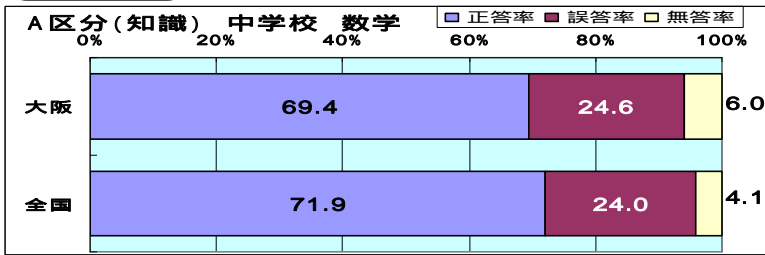
百分率の意味について理解し、それを用いて問題を解決することに課題がある。

式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠となる考えを説明することに課題がある。

A区分問題（「知識」に関する問題）

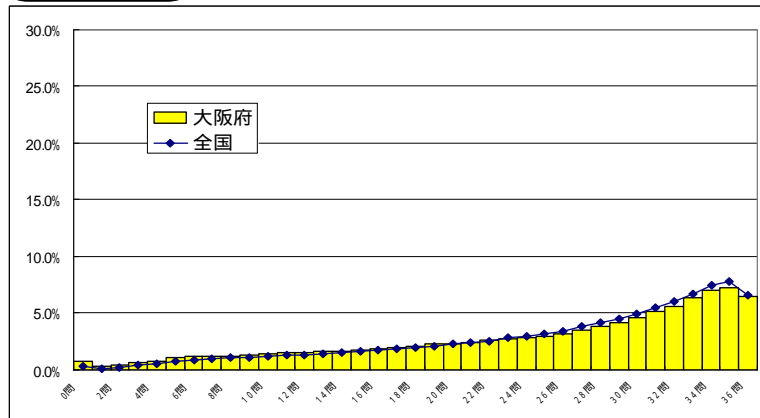
生徒の平均正答率が約7割（69.4%）であり、基礎的・基本的な知識・技能を更に身に付けさせる必要がある

正答率比較 正答率においては、全国の状況を2.5ポイント下回る



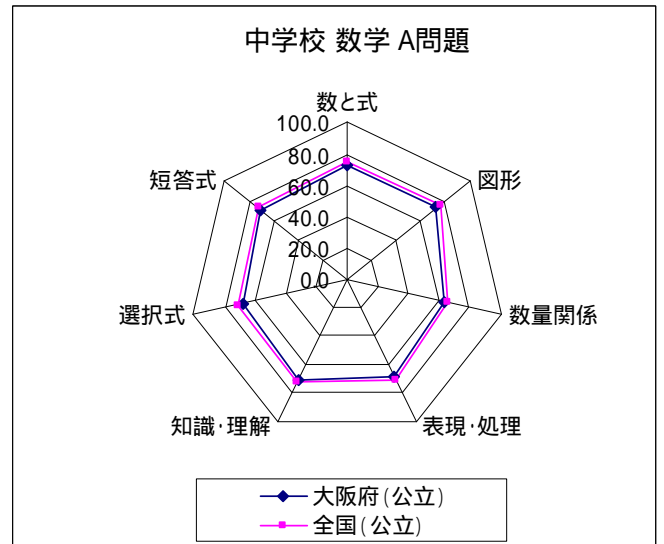
- 正答率においては、全国が71.9%であるのに対し、大阪府の平均は69.4%で、2.5ポイント下回っている。
- 誤答率では0.6ポイント、無答率では1.9ポイント、全国を上回っている。

正答数分布 なだらかな右上がりで、分布全体は拡散状況



- A区分問題は、総問題数が36問であり、全国、大阪府とも35問（百点満点換算で約97点）を頂点とするなだらかな右上がりのラインを描いており、分布は全体に拡散の傾向を示している。
- 23問（同約64点）以上の中位層以上においては、大阪府が全国を下回っている。
- 19問以下の問題数の下位層においては、分布の占める割合は、全国よりも高い。
- 0問では、全国は、その占める割合が0.3%であるのに対し、大阪府は0.8%と占める割合が高く、課題である。

領域・観点・問題形式別 全国の状況と同傾向



- 全体の傾向としては、全国の状況と同じである。
- 領域や観点間の差はあまりみられないが、「数量関係」で他の領域や観点に比べ低い値となっており、全国も大阪府も同様の傾向となっている。
- どの領域、観点においても全国と大阪府の差は小さい。

A区分問題（「知識」に関する問題）にみえる課題等

【数と式】

分数の除法の計算や正の数と負の数の四則計算は、相当数の生徒ができています。具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、連立二元一次方程式を立式することに課題がある。

【図形】

平行線の性質や円周角の性質を用いて角の大きさを求めることは、相当数の生徒ができています。円すいの体積を、底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係で理解することに課題がある。

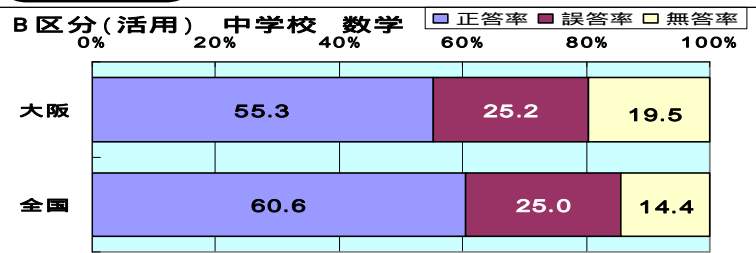
【数量関係】

反比例の関係を表す表から変化や対応の特徴をとらえ、xの値に対応するyの値を求めることに課題がある。
グラフから時間とその間に進んだ距離とをよみとり、グラフの傾きや変化の割合などを用いて速さを求めることに課題がある。

B区分問題（「活用」に関する問題）

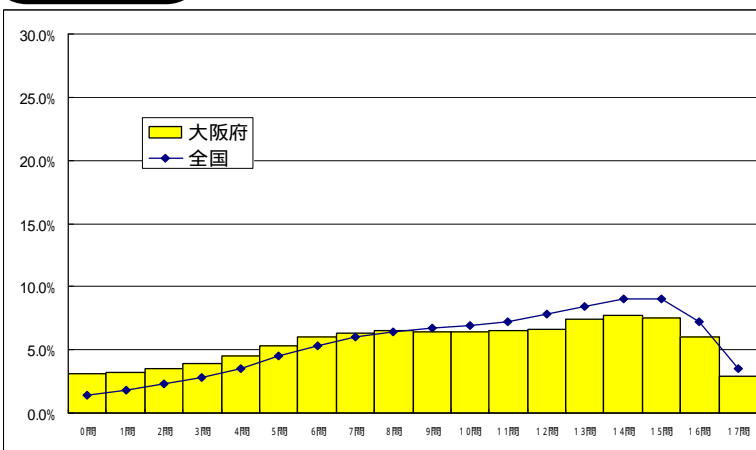
生徒の平均正答率が約5割5分（55.3%）であり、知識・技能を活用する力に課題がある

正答率比較 正答率においては、全国の状況を5.3ポイント下回り、無答率では5.1ポイント上回り、有意な差がみられた



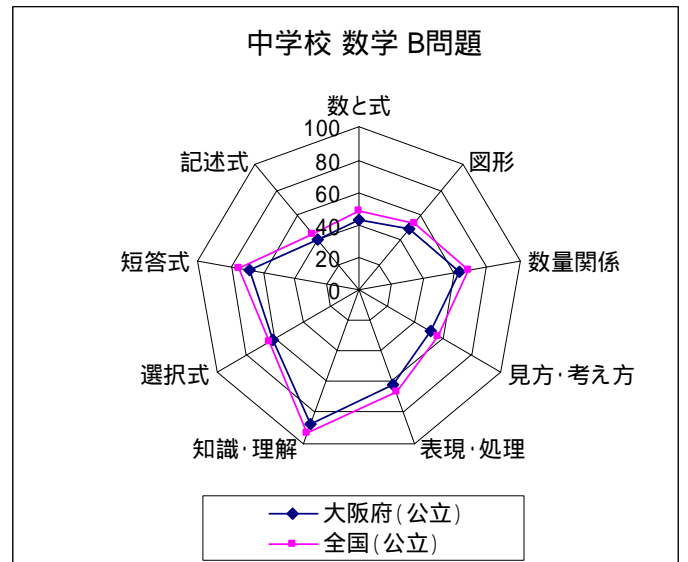
- 正答率においては、全国が60.6%であるのに対し、大阪府の平均は55.3%で、5.3ポイント下回っており、有意な差がみられる。
- 誤答率では0.2ポイントであるが、無答率では5.1ポイント、全国を上回っており、正答率の低さと無答率の高さが連動していることがわかる。

正答数分布 なだらかな台形状の分布で、拡散状況



- B区分問題は、総問題数が17問であり、全国、大阪府とも14問（百点満点換算で約82点）を頂点とするなだらかな台形状を描いており、分布は全体に拡散している。
- 9問（同約53点）以上の中位層以上においては、大阪府が全国を下回っている。
- 8問以下の問題数の下位層においては、分布の占める割合は、全国よりも高い。
- 0問では、全国は、その占める割合が1.4%であるのに対し、大阪府は3.1%と占める割合が高く、課題である。

領域・観点・問題形式別 全国の状況より一回り低い



- 全体の傾向としては、全国の状況と同じである。
- 「知識・理解」の観点では正答率が90%前後を示しており、比較的良好といえるが、他の領域、観点はいずれも70%以下と低い。
- 特に「数と式」や「記述式」では40%近くになる。次いで、「図形」「数学的な見方・考え方」等も低い。これらの傾向は、全国の状況とも同じである。

B区分問題（「活用」に関する問題）にみえる課題等

【数と式】

ことがらが成り立つ理由を、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。問題解決のための構想を立てたり、その構想を振り返って改善したりすることや、ことがらが成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

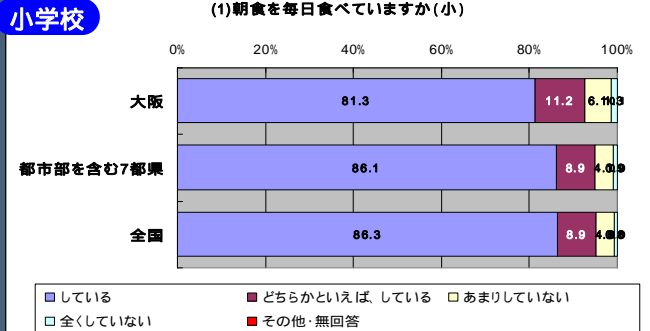
【図形】

証明における仮定と結論の意味を正しく理解し、証明の中の誤りを指摘し、筋道が通るように証明を改善することに課題がある。

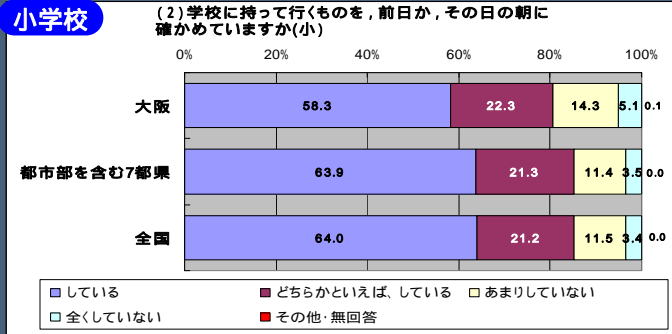
【数量関係】

二つの数量の変化の様子をよみとり、日常的な事象を理想化したり、単純化したりしてその特徴をとらえ、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。必要な情報をグラフからよみとり、判断した理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

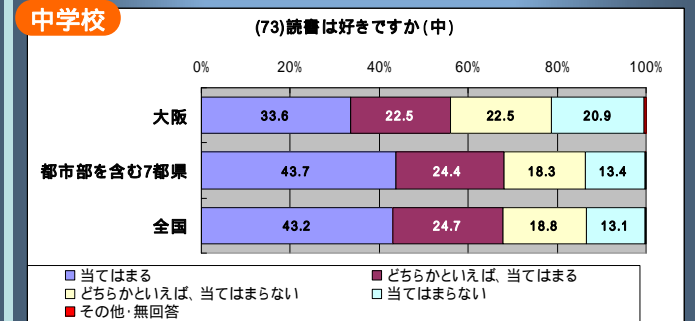
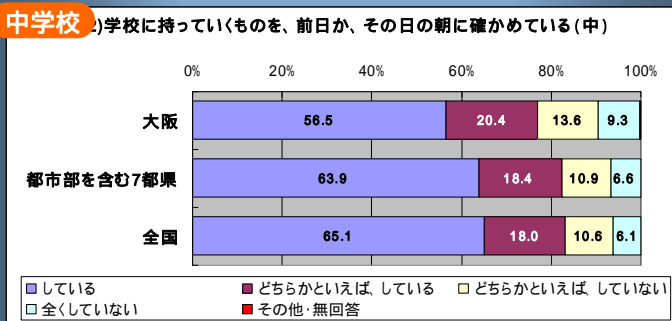
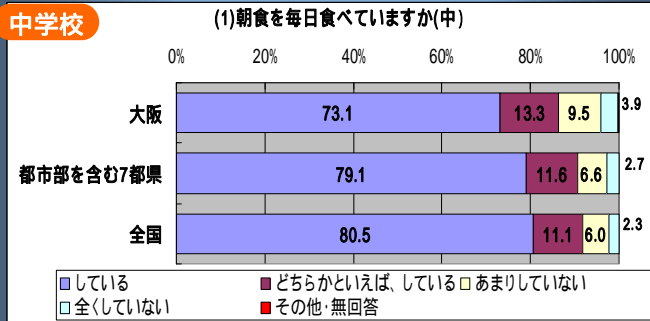
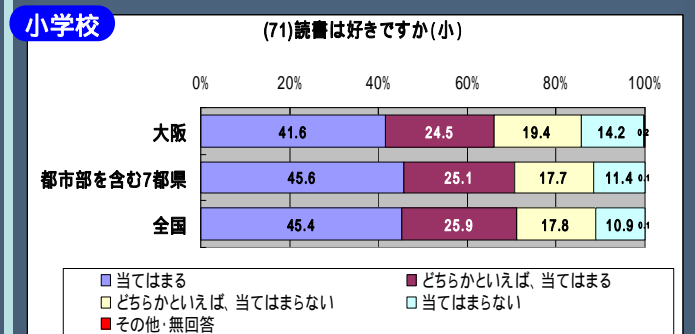
毎朝、朝食を食べている割合が低い



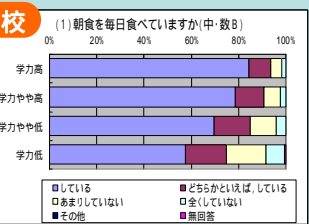
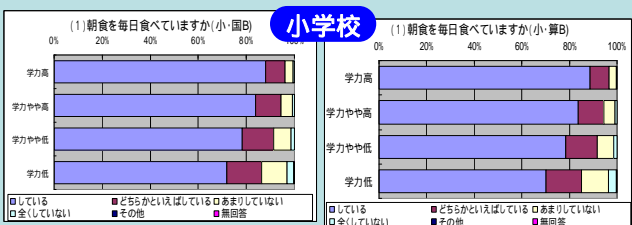
学校の準備のできる子どもの割合が低い



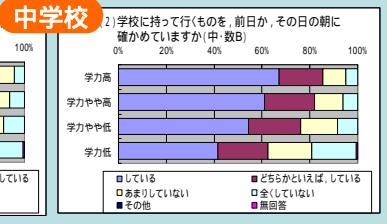
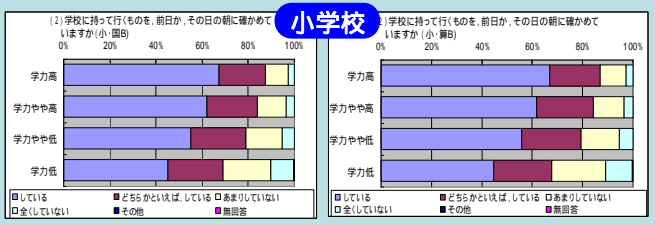
読書の好きな子どもの割合が低い



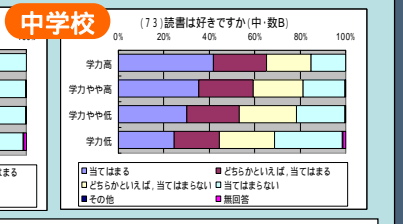
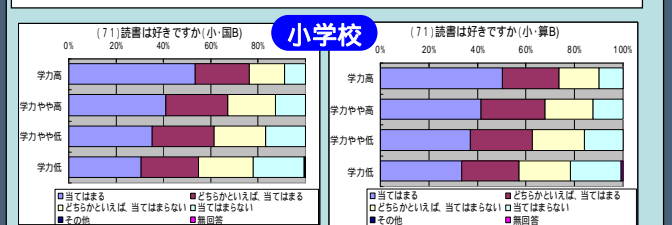
朝食と学力のクロス分析



学校の準備と学力のクロス分析



読書好きと学力のクロス分析



朝食を毎日食べている児童・生徒の割合は、都市部を含む7都県と比較しても低い。学力高位層の児童・生徒ほど、朝食を毎日食べている割合は高い。

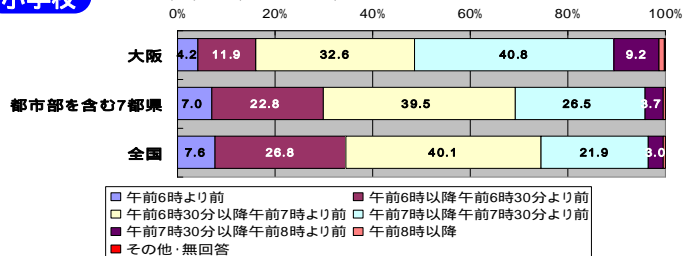
学校へ持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている児童・生徒の割合は、都市部を含む7都県と比較しても低い。学力高位層の児童・生徒ほど、学校の準備ができる割合は高い。

読書の好きな児童・生徒の割合は、大都市を含む7都県と比較しても低い。学力高位層の児童・生徒に、読書の好きな割合が高い。

起床時刻が遅く、就寝時刻が遅い

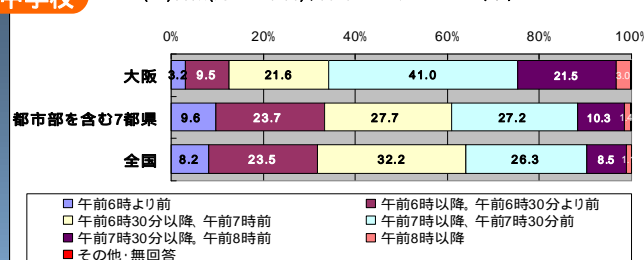
小学校

(13) 普段(月～金曜日)何時ごろ起きますか(小)



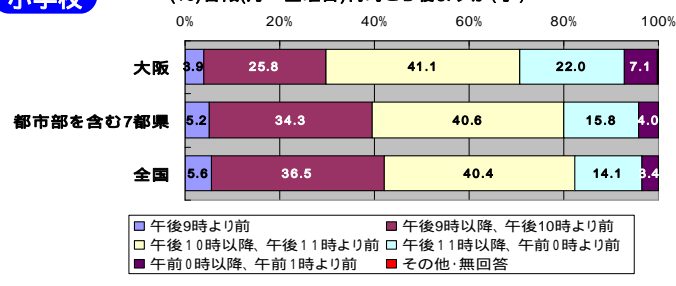
中学校

(13) 普段(月～金曜日)何時ごろ起きますか(中)



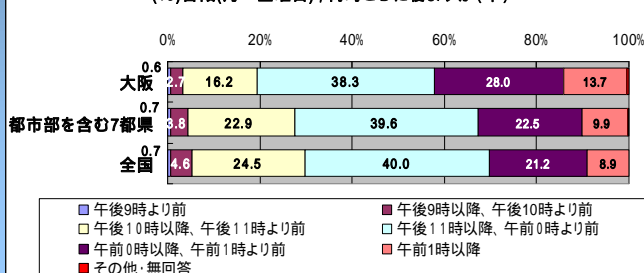
小学校

(15) 普段(月～金曜日)何時ごろ寝ますか(小)

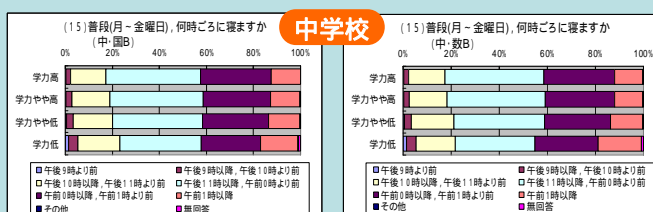
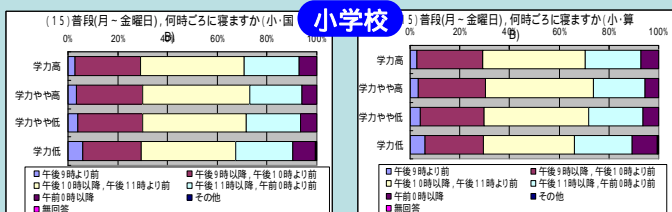
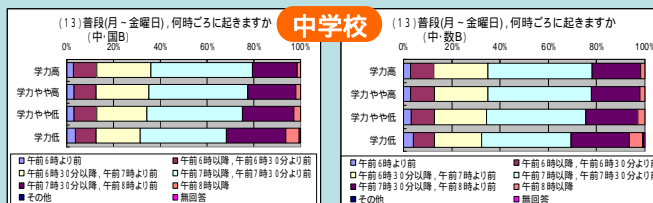
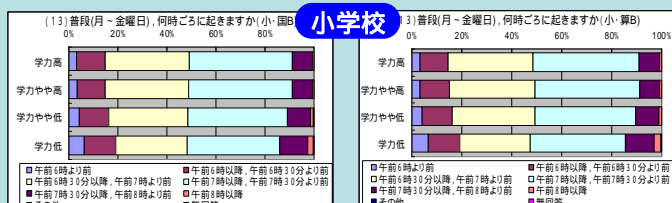


中学校

(15) 普段(月～金曜日)何時ごろに寝ますか(中)



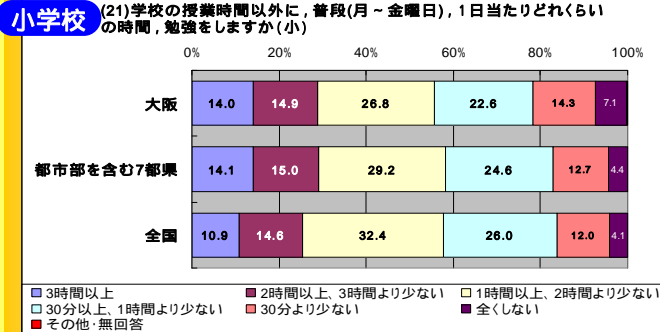
起床時刻・就寝時刻と学力のクロス分析



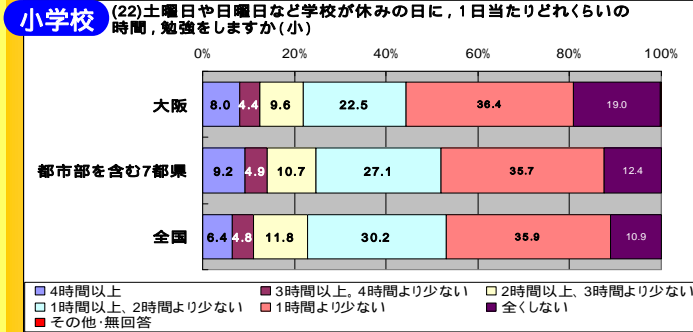
都市部を含む7都県と比較しても、大阪府の児童生徒は、就寝時刻は遅く、起床時刻も遅い傾向が、みられる。

就寝時刻や起床時刻と学力の間には、明確な関連は認められないが、学力低位層の児童・生徒に就寝時刻や起床時刻が遅い傾向がわずかに認められる。

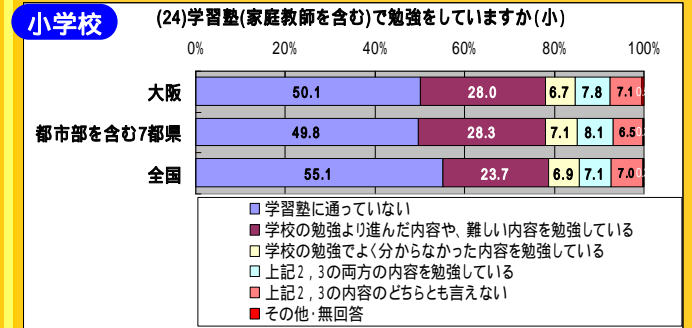
普段の家庭学習の時間は、長時間タイプと短時間・全くしないタイプで上回る



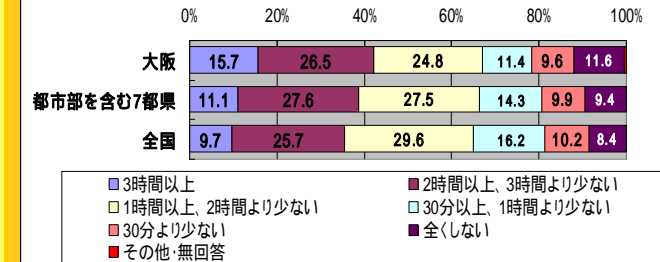
土曜日・日曜日の家庭学習を全くしない子どもの割合が高い



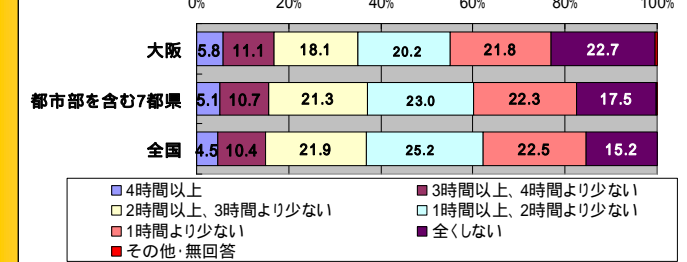
学習塾にかよう子どもの割合が高い



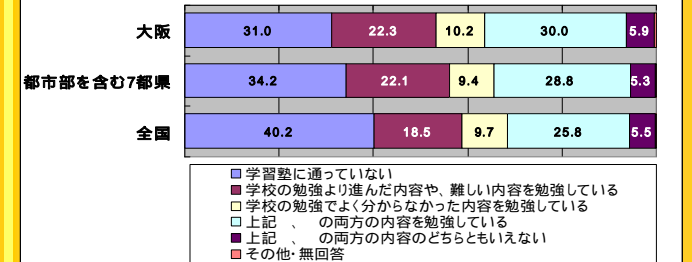
中学校 (21)学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(中)



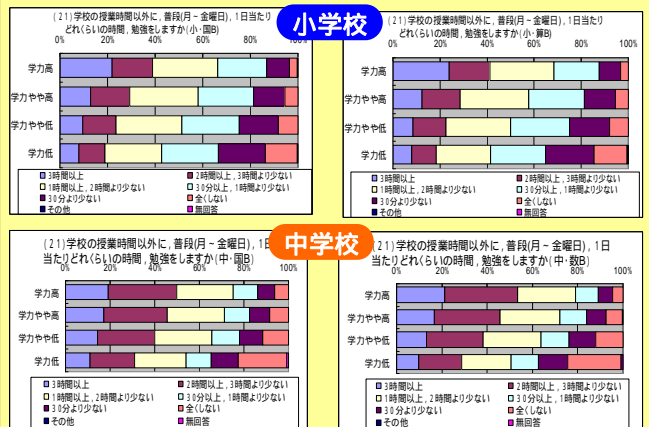
中学校 (22)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(中)



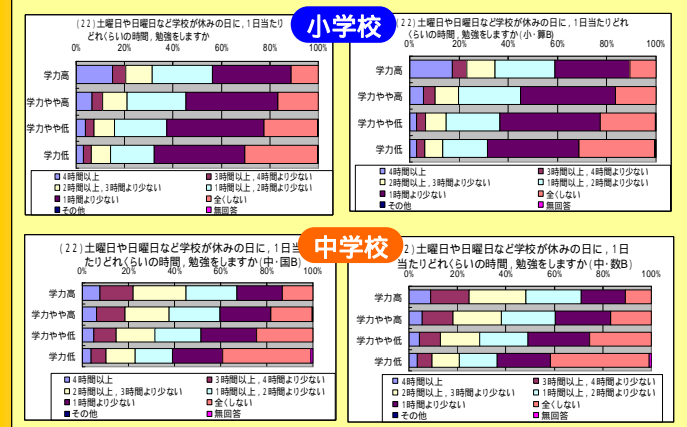
中学校 (24)学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか(中)



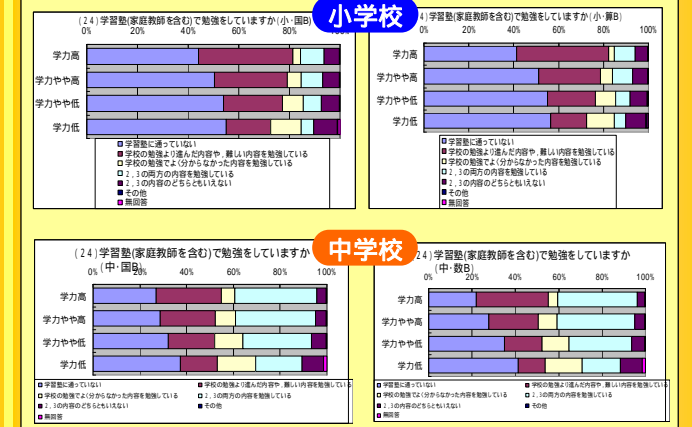
平日の学習時間と学力のクロス分析



休日の学習時間と学力のクロス分析



学習塾と学力のクロス分析

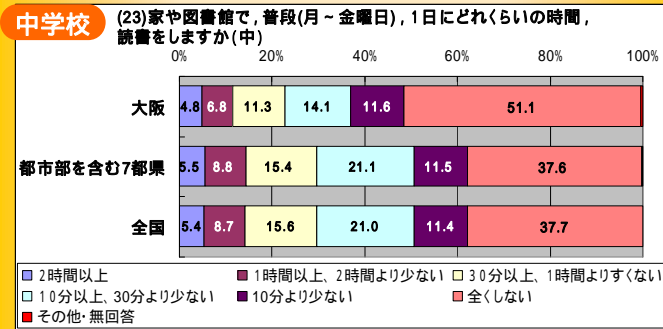
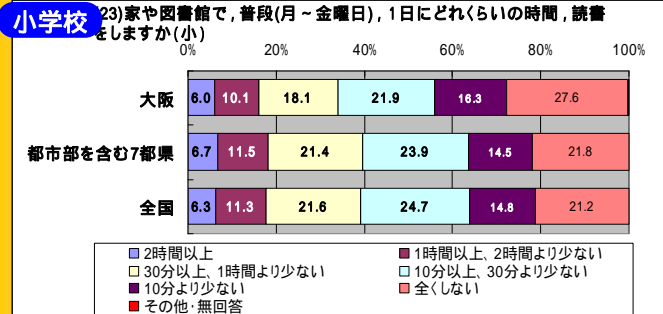


普段の日の家庭学習時間(塾を含む)は、中学校において、長時間タイプの生徒の割合が、都市部を含む7都県と比較しても高く、一方で全くしない子どもについても小・中学校とも高い傾向がみられる。家庭学習時間と学力の間には、明確な関連が認められる。

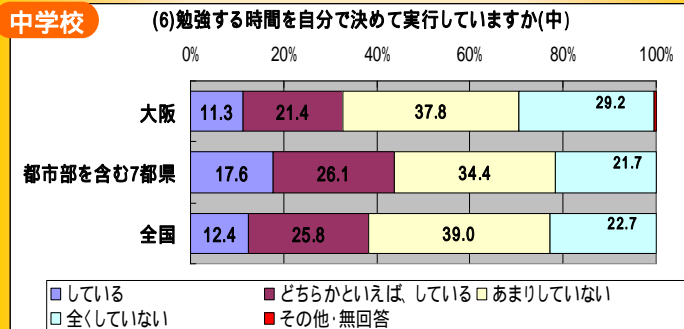
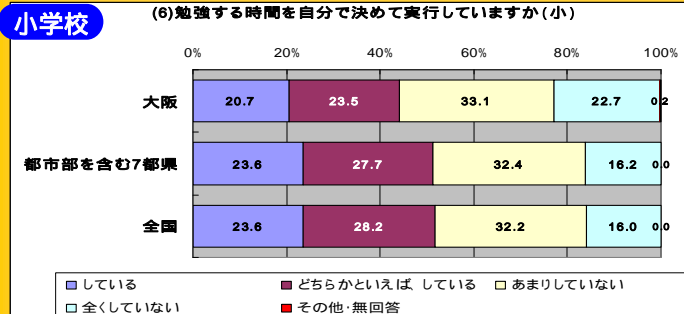
休日の家庭学習時間(塾を含む)については、長時間タイプでは、小・中学校とも、大都市を含む7都県と大きな差は認められないが、全くしない児童・生徒の割合は高い。休日の家庭学習時間と学力の間には、明確な関連が認められる。

通塾状況については、小学校では都市部を含む7都県と大きな差はみられないが、中学校においては、通塾率が高い。通塾と学力の関連は、中学校において明確に現れてくる。

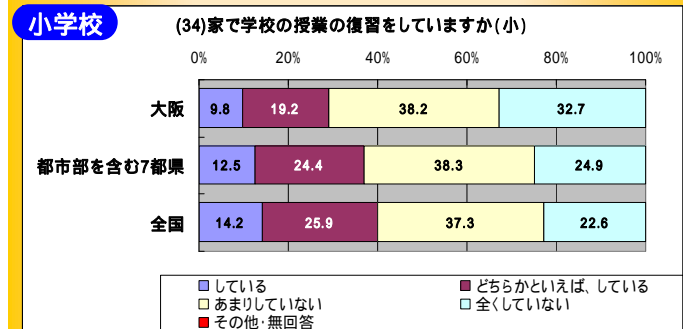
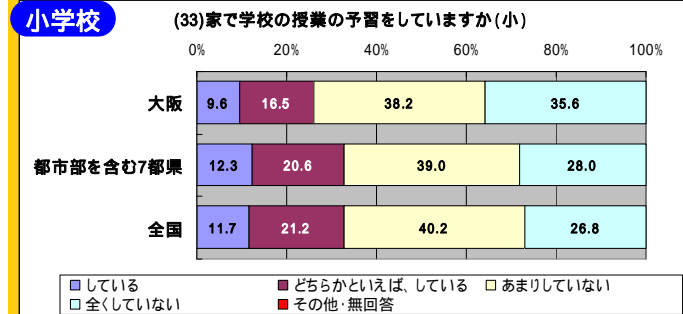
普段、読書を全くしない子どもの割合が高い



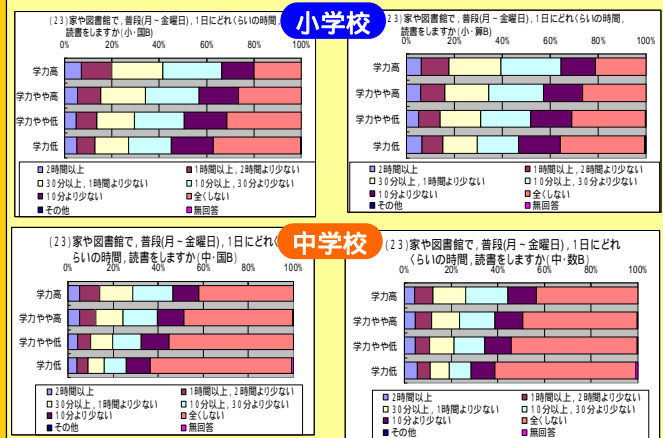
家庭学習の時間を決めていない子どもの割合が高い



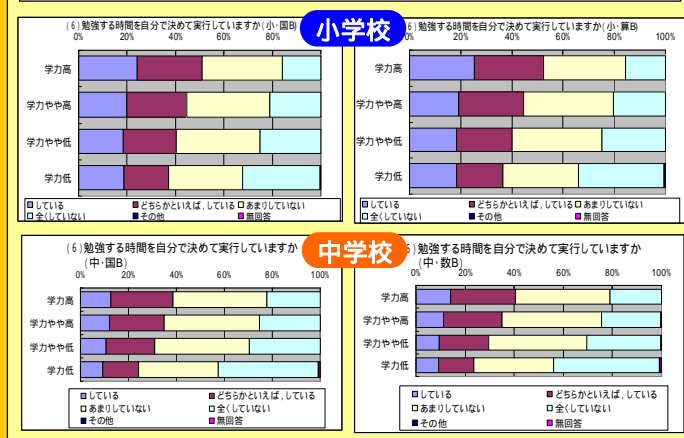
小学生で予習・復習をしていない子どもの割合が高い



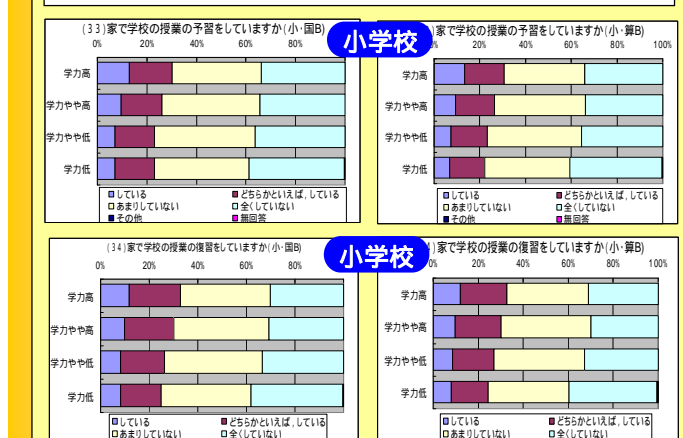
読書と学力のクロス分析



家庭学習の習慣と学力のクロス分析



予習・復習の習慣と学力のクロス分析



普段の日の読書時間については、都市部を含む7都県と比較しても、全くしない児童・生徒の割合が高い。
学力低位層の児童・生徒ほど、読書を全くしない割合が高い。

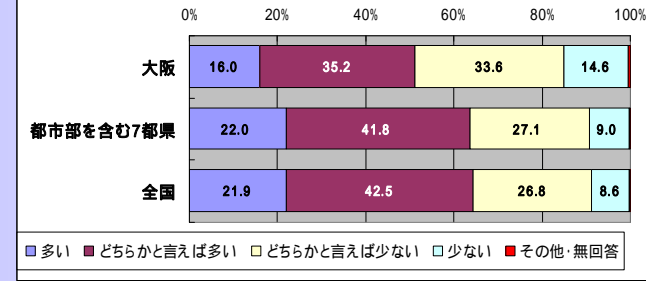
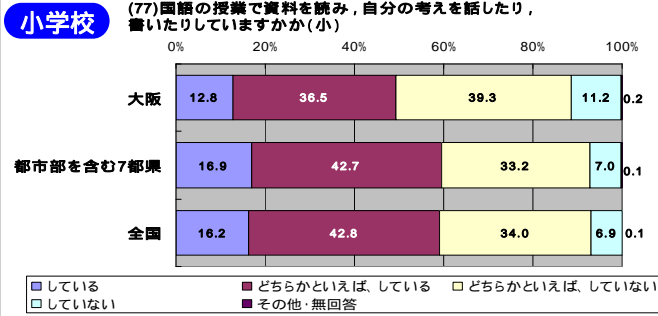
家庭学習をする時間を自分で決めて実行している児童・生徒の割合は、都市部を含む7都県と比較しても低い。
学力低位層の児童・生徒ほど、家庭学習の時間を自分で決めて実行している割合は低い。

小学生で学校の授業の予習・復習をしている児童の割合は、都市部を含む7都県と比較しても低い。
弱いながらも、学校の授業の予習・復習をすることと学力の間には、関連が認められる。

小学校の国語の授業では、自分の考えを話したり、書いたり、資料や文章を比較検討する授業が少ない

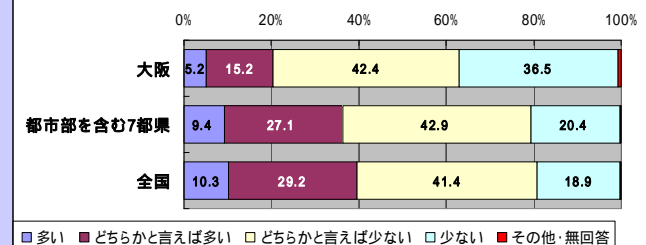
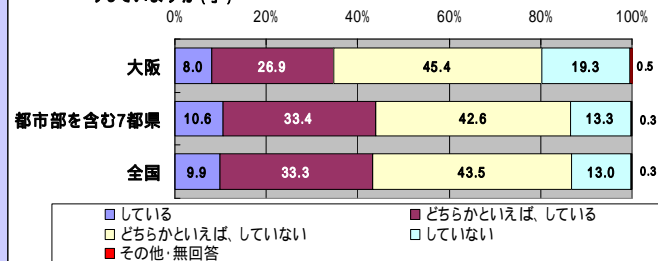
中学校の国語の授業では、自分の考えを話したり、書いたりする授業が少ない

中学校 77)国語の授業では、自分の思いや考えを書くことが多いですか(中)



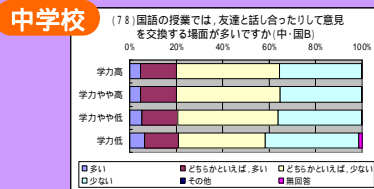
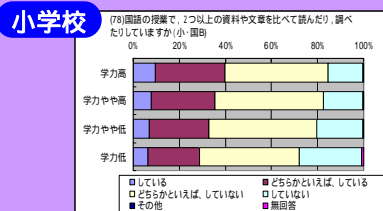
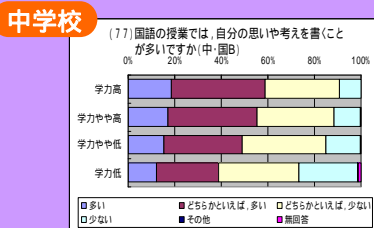
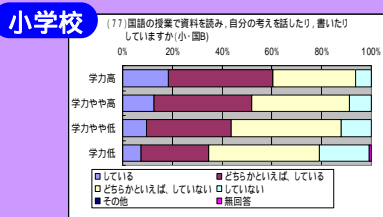
小学校 (78)国語の授業で、2つ以上の資料や文章を比べて読んだり、調べたりしていますか(小)

中学校 (78)国語の授業では、友達と話合ったりして意見を交換する場面が多いですか(中)



小学校の国語の授業と学力のクロス分析

中学校の国語の授業と学力のクロス分析



小学校の国語の授業で資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている、と回答した児童の割合は、大都市を含む7都県と比較しても低い。

学力高位層の児童に、国語の授業で資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていると回答している割合が高い。

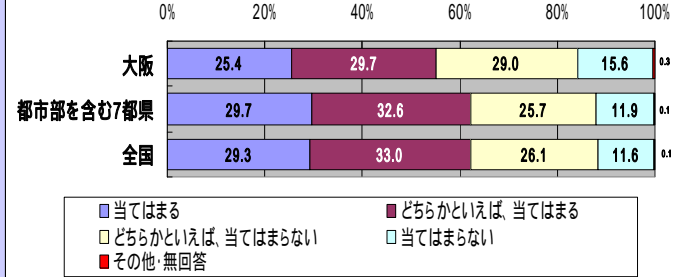
中学校の国語の授業で、自分の考えを話したり、書いたりすることが多いと回答した生徒の割合は、大都市を含む7都県と比較しても低い。

学力高位層の生徒に、国語の授業で、自分の考えを書いたりすることが多いと回答している割合が高い。

算数・数学の授業で学習したことを
普段の生活の中で活用しようとする子どもの割合が低い

小学校

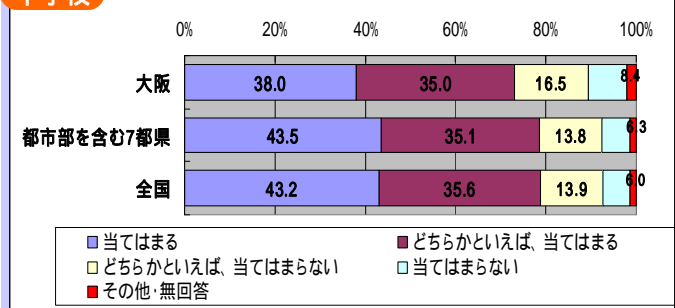
(84)算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか(小)



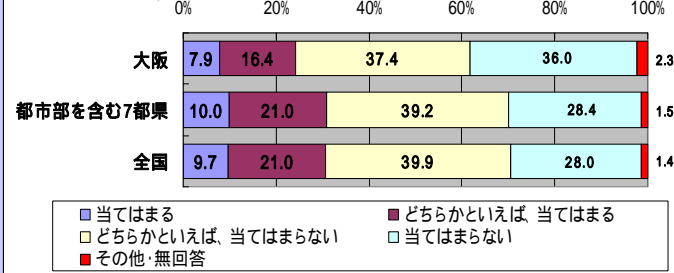
中学校

数学を学ぶことの重要性や有用性を
感じている子どもの割合が低い

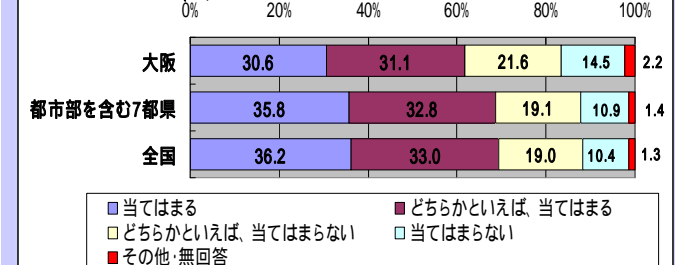
(82)数学の勉強は大切だと思いますか(中)



中学校 (86)数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか(中)

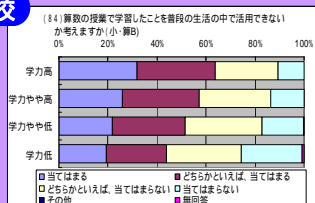


中学校 (88)数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか(中)

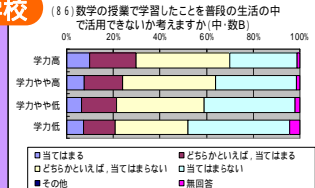


算数・数学の授業と学力のクロス分析

小学校



中学校

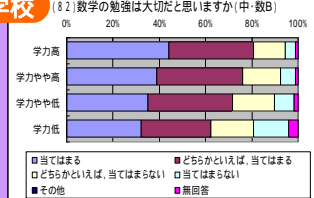


算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童・生徒の割合は、大都市を含む7都県と比較しても低い。

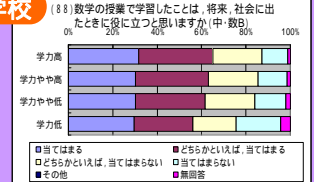
小学校の学力高位層に、算数で学習したことを普段の生活の中で活用しようとする割合が高い。

数学の学習に対する意識と学力のクロス分析

中学校



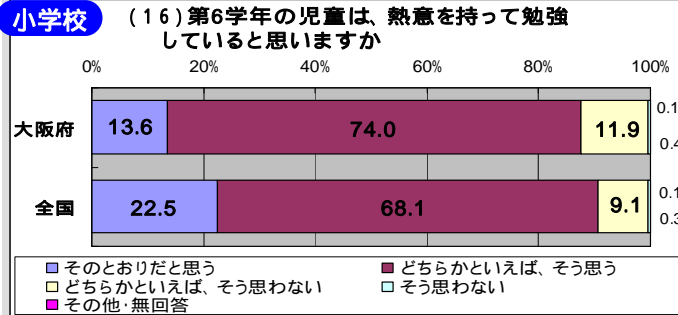
中学校



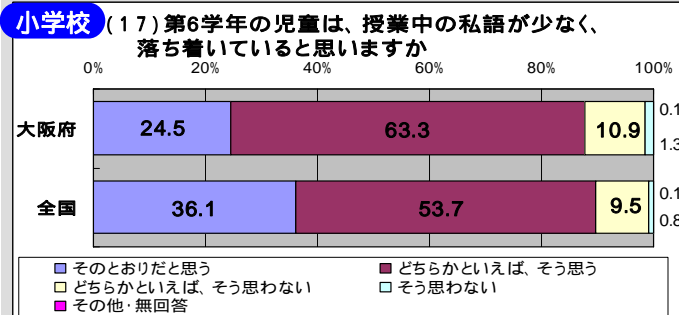
数学の授業の重要性や有用性を感じている生徒の割合は、大都市を含む7都県と比較しても低い。

学力高位層の生徒には、数学の重要性を感じている割合が高い傾向がある。

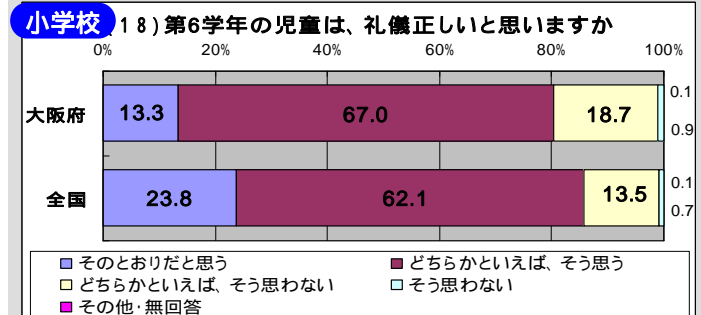
小中学校とも、児童生徒が「熱意を持って勉強している」と捉えている学校の割合は全国を下回る



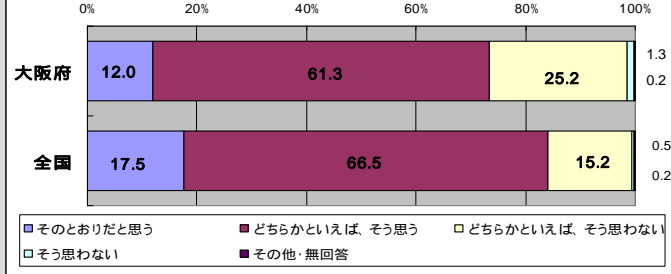
小中学校とも、児童生徒が「授業中の私語が少なく、落ち着いている」と捉えている学校の割合は低い



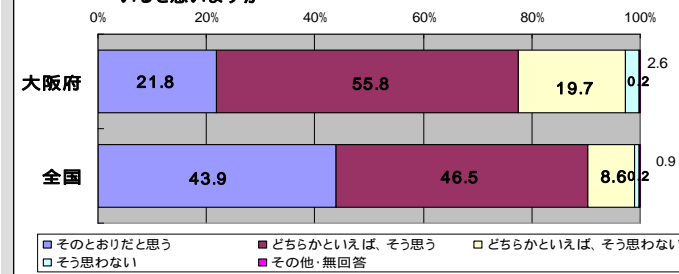
小中学校とも、児童生徒が「礼儀正しい」と捉えている学校の割合は、全国を下回る



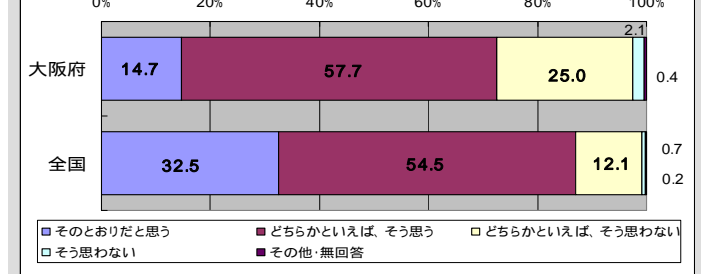
中学校 (16) 第3学年の生徒は、熱意を持って勉強していると思いますか



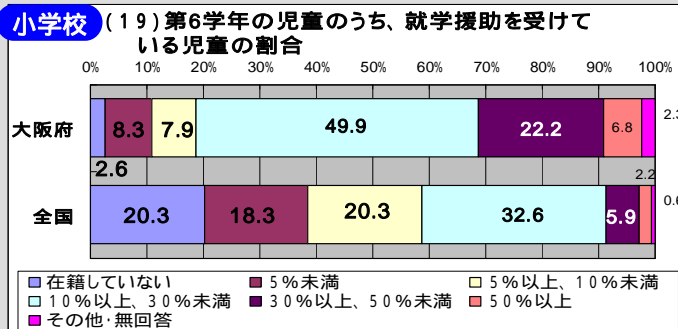
中学校 (17) 第3学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



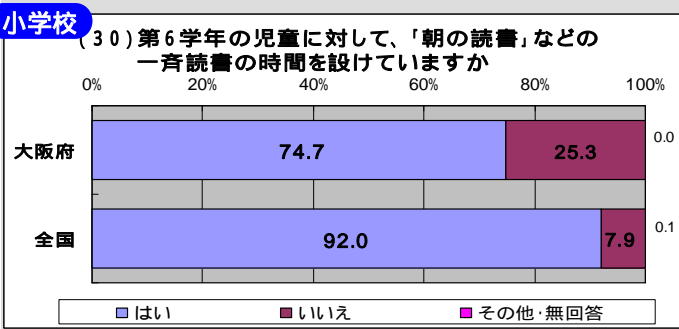
中学校 (18) 第3学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか



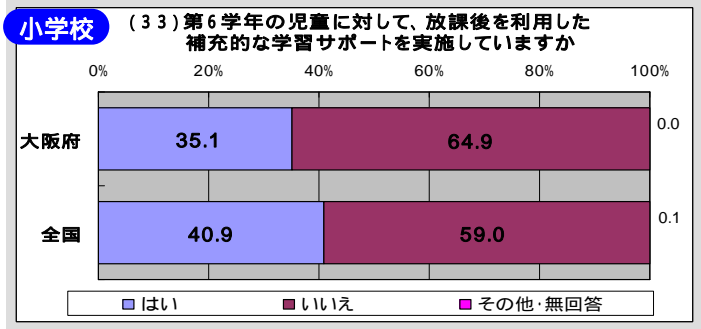
小中学校とも、就学援助を受けている児童生徒の在籍率の高い学校が多い



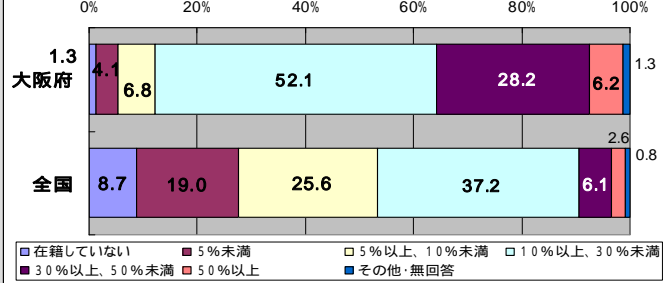
小中学校とも、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設定している学校の割合は、全国を下回る



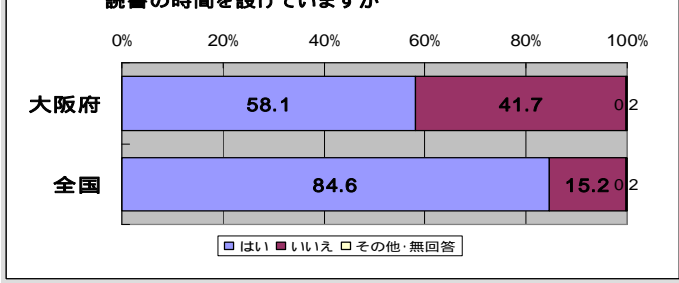
「放課後を利用した補充的な学習サポート」の実施は、中学校では全国を上回るが、小学校では下回る



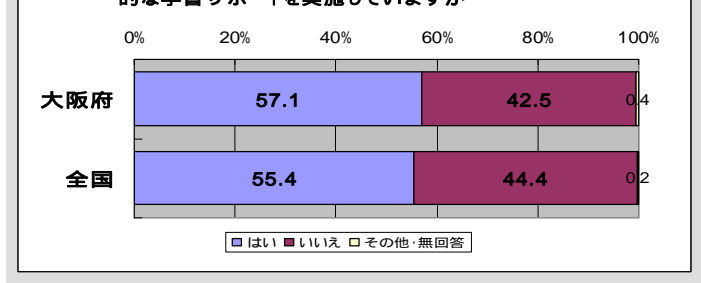
中学校 (21) 第3学年の生徒のうち、就学援助を受けている生徒の割合



中学校 (32) 第3学年の生徒に対して、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか

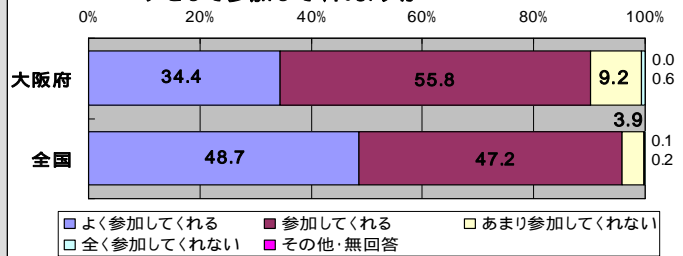


中学校 (35) 第3学年の生徒に対して、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していますか

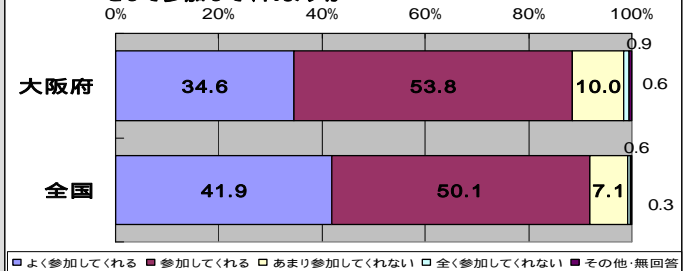


P T Aや地域の人や学校の諸活動に対するボランティアとしての参画状況は、小中学校とも全国を下回る

小学校 (69) P T Aや地域の人や学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

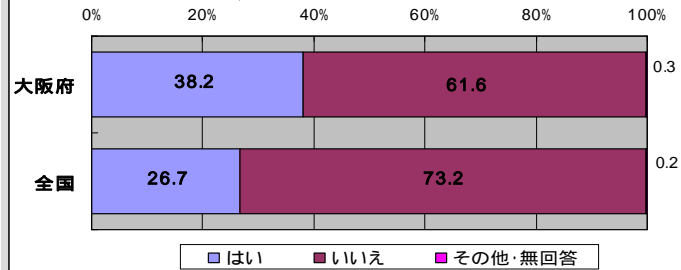


中学校 (69) P T Aや地域の人や学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか

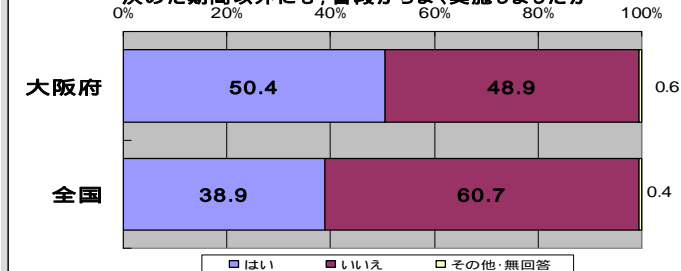


学校が決めた期間以外にも普段から家庭訪問を実施している状況は、小中学校とも全国を上回る

小学校 (71) 第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか

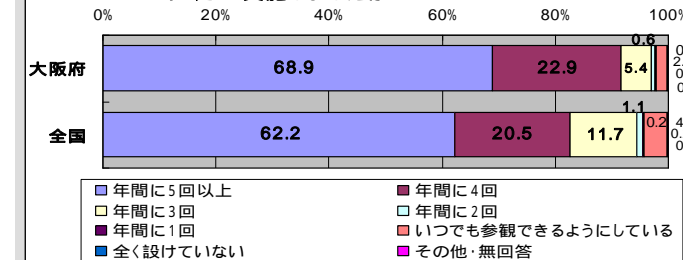


中学校 (71) 第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外にも、普段からよく実施しましたか

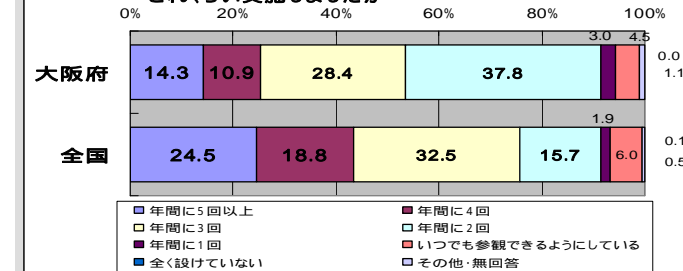


前年度に実施した授業参観の回数は、小学校においては全国を上回るが、中学校においては下回る

小学校 (75) 第6学年を対象とした授業参観を、前年度、どれくらい実施しましたか

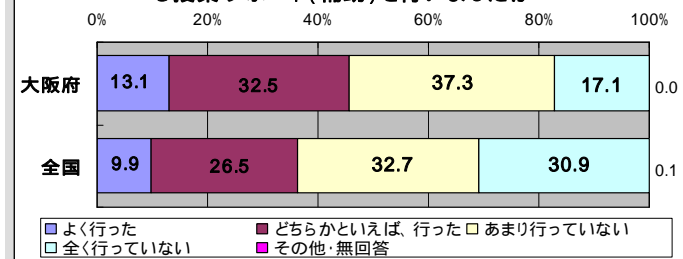


中学校 (75) 第3学年を対象とした授業参観を、前年度、どれくらい実施しましたか

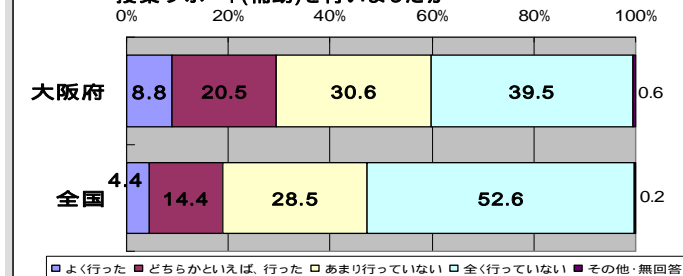


ボランティア等による授業サポート(補助)の実施状況は、小中学校とも全国を上回る

小学校 (66) 第6学年の児童に対して、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか

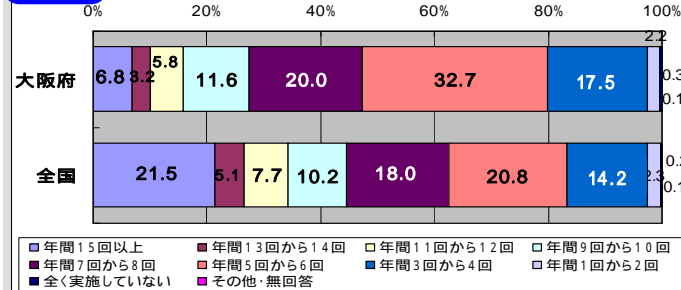


中学校 (66) 第3学年の生徒に対して、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか



前年度における、授業研究を伴う校内研修の実施回数は、小中学校とも全国を下回る

小学校 (4) 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか



中学校 (94) 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか

